

般若心経の大本と小本

般若心経には、大本（広本）と小本（略本）の違いがあります。大本は、本文の前後に教えが説かれたときの状況などが記されています。小本は、その状況説明が省略されているもので、普段私達が唱えている流布本、およびそのもととなった玄奘訳は小本です。大本では、はじめに観自在菩薩が舍利子に釈迦の教えを説くときの様子を語り、これを序

日本における般若心経

現在最も知られている玄奘訳の般若心経が、いつ日本に伝わったかは詳しく分かっていません。

しかし、玄奘が般若心経の翻訳を終える649年以前には、鳩摩羅什訳の般若心経やサンスクリット語の般若心経が日本に伝わっていたと考えられています。

法隆寺にはサンスクリット語の般若心経の写本「法隆寺梵本」が残されており、現存する世界最古

分といえます。般若心経の中核となる本文部分を、正宗分といえます。

最後は流通分と呼ばれる、般若心経を称賛する文で締めくくられます。



のものとなっています。

玄奘訳が伝えられた後は、空海や最澄など日本の仏教を築いた名僧にも重視され続け、民衆にも広まっていききました。時代が下ると、文字が読めない人のために、絵で描かれた絵心経も作られました。

